

感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

1 平成18年12月28日報告分から19年10月31日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤126件である。輸血用血液製剤の内訳は、

- (1) B型肝炎報告事例： 65
- (2) C型肝炎報告事例： 33
- (3) HIV感染報告例： 0
- (4) その他の感染症報告例： 28

2 B型肝炎報告事例

- (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は61例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は11例、輸血後のみNAT陽性は1例）。
- (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は6例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は1例（劇症化例含む。）である。

3 C型肝炎報告事例

- (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は32例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は6例）。
- (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は1例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

4 HIV報告事例

- (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
- (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

5 その他感染症報告事例

- (1) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例である。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は2例。
- (2) A型肝炎感染疑い事例は1例である。